

「メルボルン大学派遣プログラム参加報告書」

① 学習成果について

毎週開催される論理学セミナーでは様々な専門分野の研究者が最先端の内容を発表しており、現在の論理学研究の潮流をつかむことができた。また、自身の研究に関連するものも多く、非常に刺激を受けた。このほかに、Greg Restall 教授と自身の研究についてディスカッションを行い、多くの有意義な助言を受けることができた。また、様々なバックグラウンドをもった現地の院生や研究者とも交流を行うことができ、国際理解への意欲を新たにすることができた。

② 海外での経験について

移民国家であるオーストラリアでの生活は新鮮なことが多かった。特に、多様な価値観を持った様々な人種が共存している状況において、寛容な雰囲気印象的であったとともに、その中でも生じる摩擦や対立などの問題にも触れることができた。さらに、長期間の海外生活の中で日本の文化や社会について外から眺めることで、その固有性や特徴、問題点等をより強く意識するようになった。

③ プログラム内容について

今回の派遣プログラムは、Greg Restall 教授のもとで論理学、その中でも特に非古典論理の分野について哲学的視点から研究に従事することを目的としていた。このために、前述のとおり毎週開催される論理学セミナーへの出席、および教授との議論などを行い、最先端の研究に触れるとともに自身の研究を前進させることに従事した。Greg Restall 教授はこの分野の第一人者であり、現在の研究内容および今後の方針等について非常に有益な指導をしてくださった。

SEND に関しては、週に一回の日本語授業に参加し、現地の学生と日本語でディスカッションを行った。今回参加した授業は上級クラスであったため、参加者の日本語能力が非常に高く、日本とオーストラリアの文化とその比較等について多くの内容を議論した。

④ 進路への影響について

今回の派遣により、将来の研究方針について非常に多くの知見を得ることができた。また、今後留学を検討するにあたって、今回の派遣による経験は非常に有益であった。具体的には、長期の留学に必要な語学力等について一定の認識を持つことができたとともに、海外で新たな研究に触れることについてより意欲的になった。

京都大学文学研究科修士2年 五十嵐涼介